

一緒に育てておいしく食べよう ～おいしい野菜を育てよう～ (第2学年)

1 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

おいしい野菜を幼稚園の友達と一緒に収穫するために、野菜の生育条件に目を向け、野菜や幼稚園の友達を自分との関わりで見つめ、野菜の育つ場所、世話の仕方、変化や成長の様子、伝え方について友達と交流していく。さらに、野菜や幼稚園の友達への関わり方を工夫して栽培を続ける中で見いだした課題についても、考え続けている。

知識・技能の基礎	学びに向かう力・人間性等	思考力・判断力・表現力等の基礎
幼稚園の友達と野菜を栽培する活動において、成長、生命の大切さに気付くとともに、幼稚園の友達と一緒に野菜を栽培する活動のよさや楽しさが分かる。	幼稚園の友達と進んで交流しながら、栽培する野菜に繰り返し関わる中で、野菜への親しみをもち、収穫に向けて大切に育てようとする。	野菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける。そして、野菜の世話ができるよう、幼稚園の友達の立場に立って、伝えたいことや伝え方を選ぶ。

本単元で、子供たちは幼稚園の友達と一緒に野菜を育てて収穫し、野菜パーティーをするという目的意識をもって、野菜の栽培活動を行った。この活動において、栽培と交流の内容の関連を図ることで、栽培活動が伝え合う活動の動機付けに、伝え合う活動が栽培活動の充実にと、互いの学習の深まりにつながると考え、学習を進めた。栽培活動においては、まず、幼稚園の友達と一緒に育てて、食べる野菜を1種類、相談して決めた。子供たちは「幼稚園の友達と一緒に世話をし、たくさん収穫できるように、元気に大きく育ててほしい」という願いを実現するために、自分たちの野菜への関わり方を考えた。その際、1年生の時の経験を振り返り、例えば、「アサガオの時と同じように、土が乾いていたら水をあげよう」などと野菜の生育条件（土・水・日照・肥料）に目を向け、野菜の世話の仕方を確認した。そして、幼稚園の友達に世話の仕方を伝える際には、「害虫をとるために、お酢スプレーの仕方を伝えるよ。幼稚園の友達に分かりやすく伝えるには、どのように伝えるといいかな」と、栽培する野菜、幼稚園の友達を自分との関わりで見つめ、世話の仕方や伝え方について友達と交流していった。その話合いの中で、例えば、「言っただけでは分かってももらえなかった。幼稚園の友達が分かるように、まず、手本を見せよう。それでも分からなかったら、一緒にしよう」などと、関わり方の工夫を考えていった。そして、一緒に世話する野菜や幼稚園の友達への自分の関わり方のよさを確認し、よりよい関わり方を工夫していったのである。野菜パーティーに向けて、幼稚園の友達と一緒に世話したり、野菜の様子を伝えたりする活動を繰り返すことで、伝えることに苦手意識をもっている子供も自信を高め、「収穫した野菜の料理の仕方を調べて、幼稚園の友達に伝えたいな」などといった新たな問題の解決に向けて、一緒に世話する野菜や幼稚園の友達に関わり続けようとする姿が見られたのである。

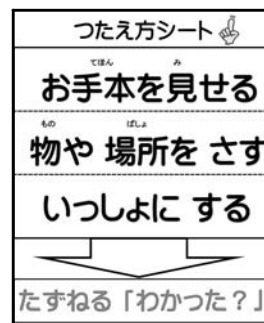
2 子供の実態 (本単元に入るまで)

メタ認知に関わる実態調査から友達との協働については、よさを感じている子供が多く見られ、「相手に分かりやすくお話をするのは得意ですか」という質問には、「得意」「どちらかというと得意」と回答した子供が35名中28名いた。そのうち2名の子供は、「友達が分かったと言ってくれるから」という理由であった。また、相手に分かるように話すことについては、7名の子供が「どうやったらできるかわからない」などの理由から、苦手意識をもっていることが明らかになっており、実際に幼稚園の友達に分かるように伝える場面で、うまく伝えることができないことが想定された。

3 メタ認知を促す働きかけ

(1) 課題解決中

幼稚園の友達に伝わるようにするために、育てる野菜の今の様子や世話の仕方について、2年生のペアの友達と自分の伝え方を見せ合い、良い点や改善点を教え合う時間を位置付けた。その際、複数の伝え方と気を付けることを示したシートを自分の手元に置いておくことで、伝える側は、「相手に分かりやすく伝えるには、言葉だけでなく、動作で示すとよい」と意識しながら、自分の伝え方を振り返られるようにした。教える側は、伝え終えたタイミングで分かりやすさを判断し、アドバイスできるようにした。再度練習する際にも、このシートを使うことで、伝える手順や分かりやすい伝え方をお互いに確認しながら、練習できるようにした。【アドバイスタイム・伝え方シート】(3, 5, 6, 8, 10, 12~16時間目)



【伝え方シート】

(2) 課題解決後

教師が終末場面で「キラキラタイムです」と伝えると、子供たちは本時「友達と活動してよかったこと」「これからしたいこと」という観点から振り返りを行い、付箋に記入した。全体交流の際には、教師が取り上げた内容に該当する活動場面の写真を示しながら、よかった理由について問うことで、子供たちは、「アドバイスタイムがあったから、青組さんにうまく伝えられた」などと、協働するよさに気付くことができた。【キラキラタイム・キラキラインタビュー】(3, 5, 6, 8, 10, 12~17時間目)


4 単元構成の工夫と学習の流れ(総時数 17時間)


野菜パーティーに向けて、幼稚園の友達に野菜の様子や世話の仕方を分かりやすく伝える活動を繰り返し行えるようにした。そうすることで、伝えることへの苦手意識が徐々に解消され、野菜の変化や成長の様子への驚きや喜びなどを共有する中で、野菜への親しみをもつことができた。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
第一 次	<p>① 一緒に育てる野菜を決めて、植える準備をしよう</p> <p>一緒に育てる野菜については、幼稚園の友達と相談しながら1種類決めて、収穫後に幼稚園の友達と野菜パーティーを開き、一緒に食べることを最終目標にすることを共通理解した。</p>
第 二 次	<p>②③ 育てる野菜と一緒に植えよう</p> <p>1年生の時のアサガオなどを育てた経験を振り返りながら、幼稚園の友達と一緒に苗を植えた。その際、植え穴の作り方を教え、幼稚園の友達が行うようにした。</p>
	<p>④~⑥ 野菜を元気に大きく育てるためのお世話を、分かりやすく伝えよう 本時(6/17)</p> <p>まず、アサガオの成長過程と行う世話を流れ図に示して振り返り、育てる野菜の世話の仕方を本などで調べた。その後、野菜を観察し、野菜の成長への気付きから、今必要な世話の仕方を考えた。そして、幼稚園の友達ができるよう、水やりなどの世話の仕方を伝え、一緒に世話をを行った。伝える世話が分からない子供には、T2が世話の仕方を選択できるように示したり、一緒に考えたりする個別支援を行った。</p>
	<p>⑦~⑩ 大きくなった野菜のお世話を、分かりやすく伝えよう</p> <p>大きくなった野菜の様子を確認し、それを基に世話の仕方を考えた。野菜の様子を幼稚園の友達に教えたという子供の思いから、幼稚園の友達に分かるように伝え方を選択して、野菜の世話の仕方を伝えた。</p>
第 三 次	<p>⑪⑫ 実ができた野菜のお世話を、分かりやすく伝えよう</p> <p>野菜の実の色や大きさなどの様子を見て、健康状態を確認し、それを基に世話の仕方を考えた。その後、野菜の世話の仕方を幼稚園の友達に分かるように伝え、一緒に収穫した。</p>
	<p>⑬~⑰ 青組さんと野菜パーティーをしよう</p> <p>幼稚園の友達に渡す野菜パーティーの招待状を作った。野菜パーティーを開き、その後、一緒に活動してよかったことを手紙に書いて幼稚園の友達に伝えることで、次の幼稚園の友達との活動への意欲を高めた。</p>

5 本時における子供たちの姿（6/17時間，T1:専科教員・T2:学級担任）

前時に考えた育てる野菜に必要な世話について，一緒に野菜を育てる幼稚園の友達に分かりやすく伝え，一緒に世話ができることを目指した。

学習活動	授業の詳細と主な子供の意識
<p>課題設定以前 〈学習活動1〉 前時を振り返り，本時の学習課題を確認する。</p>	<p>前時までに子供たちは，1年生の時に育てたアサガオの成長過程と行う世話の流れ図，育てる野菜に必要な世話調べから，肥料や害虫，病気などについて理解していた。本時において，生活科専科教員（T1）は，主に全体指導を行い，幼稚園の友達の立場から子供たちに助言をし，学級担任（T2）は個別指導をした。本時の始めに，あらかじめ伝えておいた，幼稚園の友達が今日，世話をしに来ることを確認した後に，「幼稚園の友達がお世話できるように，元気に大きく育てるためのお世話の仕方を分かりやすく伝えられますか」と問いかけた。そして，分かりやすく伝えられそうだけれど，伝え方を確かめておきたいという子供たちの思いから，学習課題を確認した。</p> <p style="text-align: center;">野菜を元気に大きく育てるためのお世話を，分かりやすく伝えよう</p>
<p>課題解決中 〈学習活動2〉 幼稚園の友達にとって分かりやすい伝え方になっていくかを確認し合い，決定する。</p>	<p>幼稚園の友達が野菜の世話をできるよう，分かりやすい伝え方（手本を見せる，物や場所を指す，一緒にする）を選んで，伝える練習をしていくことを確認した。その際，T1とT2で伝え方のモデルを示した。幼稚園の友達役のT1に，2年生役のT2が，野菜の世話の仕方を分かりにくい伝え方で伝え，修正が必要な例を示した。そして，どこを修正したらよいか，伝え方シートの内容を基に考える場を設定し，子供たちからアドバイスをもらい，分かりやすい伝え方を全体で共有した。その後，2年生同士で，植木鉢で育てている野菜を使って伝え合う練習をする時間を設けた。【アドバイスタイルム・伝え方シート】</p> <p style="text-align: center;">メタ認知を働かせている様相</p> <p>C1：まず，害虫のとり方を教えるよ。お酢を水でうすめて，スプレーに入れてシュシュと害虫にかけるよ。</p> <p>C2：こんな時は，見本を見せたらいいね。</p> <p>C1：確かにそうだね。（手本を見せながら）もし，害虫がいたら，葉っぱをちょっとめくってシュシュとしてね。</p> <p>C2：（実際にやって見せながら）こういうことですか。</p> <p>C1：そう。スプレーの仕方は，分かったかな。</p> <p>C2：手本を見せてくれたから，害虫のとり方が分かったぞ。（白帽子にする）</p>  <p>友達からのアドバイスを聞くことで，自分の伝え方を振り返り，分かりやすい伝え方になるよう，修正しながら練習できるようにした。伝えられた内容が分かったら，幼稚園の友達役の子供は，帽子を赤から白にし，T1は，なかなか白帽子に変わらないペアに個別指導を行った。友達の伝え方を見る際，どのようなところをアドバイスしたらよいか表出が難しい子供に対しては，T2がシートの内容を確認しながら聞き取りを行い，友達にアドバイスを行えるように支援した。さらに，自分の伝え方に自信をもてるように，繰り返し練習するよう促した。</p>
<p>〈学習活動3〉 育てる野菜の世話を幼稚園の友</p>	<p>伝える練習をした子供たちが，実際に幼稚園の友達に野菜の世話の仕方を伝え，一緒に野菜の世話をする場を設定した。そして，一緒に育てる野菜の今の様子を見ながら，「葉っぱが虫に食べられているね。お酢スプレーをかけるといいよ。やってみるから見ててね」などと，これからの世話について伝え，幼稚園の友達が分かったかを確</p>

<p>達に伝え、一緒に野菜の世話をを行う。</p>	<p>認しながら、一緒に野菜の世話をすることができた。幼稚園の友達が分かっていない時は、「初めてだから、1回やって見せただけでは難しいんだな。一緒にやろう」と、幼稚園の友達の反応を見ることで自分の伝え方を見直す姿が見られた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">メタ認知を働かせている様相</p> <p>C3：害虫が、もし葉っぱの裏についていたら、葉っぱをめくって、このスプレーを2回くらいするんだよ。（手本を見せる）</p> <p>園児：（じっと見ている）</p> <p>C3：一緒にやろう。葉っぱの裏を見てみよう。</p> <p>園児：あれ、花が咲いている。</p> <p>C3：ミニトマトの花だよ。見たことあるかな。花がたくさん咲くように、スプレーをするよ。（一緒にしながら）スプレーのここを持って、シュシュとするよ。</p> </div>  <p>その後、幼稚園の友達に伝えた野菜の世話を実際にやってもらい、一緒に野菜の世話をを行った。年下の友達と話をすることが苦手な子供に対しては、幼稚園の友達に伝えた内容が分かったかを尋ねられるようにT2が支援をすることで、自分から交流することができた。</p>
<p>課題解決後 〈学習活動4〉 本時の振り返りを行い、友達と活動してよかったことを発表する。</p>	<p>本時の終末に、「キラキラタイムです」と声をかけ、子供たちが、「友達と活動してよかったこと」という観点で振り返る場を設定した。それぞれが付箋に振り返りを記入した後、全体交流を行った。全体交流では、取り上げた内容と該当する活動場面の様子を映像で示した。メタ認知が低い子供も、T2の支援により協働するよさに気付くことができた。【キラキラタイム・キラキラインタビュー】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">メタ認知を働かせている様相</p> <p>T2：友達と一緒に勉強してよかったことはありますか。</p> <p>C4：アドバイスタイムに。友達にアドバイスしてあげると喜んでいたよ。</p> <p>T2：青組さんにしてあげてよかったことはありますか。</p> <p>C4：私が先にお手本を見せたから青組さんができたんだなと思いました。</p> </div> <p>その後、「野菜パーティーをして、もっと仲良くなりたい」など、表出した思いを、次の課題につなげた。</p>

6 考察（○：成果，●：課題）

幼稚園の友達と一緒に野菜を育て、野菜パーティーをするために栽培活動を通じることを通して、野菜と幼稚園の友達への自分の関わり方をよりよく工夫する姿が見られた。野菜パーティー後には、「次も、幼稚園の友達と一緒にしたい」という思いをもつことができた。

- 伝え方の練習では、害虫のとり方は言葉だけの説明だったが、ペアの子供のアドバイスと動きがあることで、その子を鏡として、自分の伝え方の確認や修正につながった。
- 協働のよさに気付かせることで、アドバイスタイムにアドバイスをもらえてうれしいと子供は表出した。さらに、T1も全体に「幼稚園の友達に上手に伝えられたのは、どうしてかな」という声かけをして、うまくできた理由に焦点化することができるとよかった。今後、協働のよさを振り返り共有化する際、焦点化した教師の問いかけ等の改善が必要である。